

4 市民生活に身近なことに予算が使われています

日常的な光景でどのくらいの予算が使われているかはわかりにくいものです。
身近なものとして実感しやすい、いくつかの例をご紹介します。

ごみ
処理

ごみ、資源物の収集処理に 要する経費

ごみの収集や焼却、資源物の
リサイクルにかかる経費など

年間150億円

世帯数:773,052世帯
(令和6年1月1日現在)

1世帯あたりの負担額
年間19,357円



子育て

保育所の運営に 要する経費

公立保育所、
民間保育所の運営費など

年間619億円

対象園児数:34,454人
(月平均)

園児1人あたりに必要な経費
年間1,797,684円



環境

公園の維持管理に 要する経費

草刈や樹木の剪定にかかる経費など

年間38億円

公園管理面積:7,593,353㎡
(市民生活に身近な公園=
約2,500㎡の広さが目安)

2,500㎡あたりの経費
年間1,256,418円



福祉

介護保険サービスに 要する経費

介護サービス・介護予防の
実施にかかる費用など

年間1,130億円

要介護・要支援認定者数:
64,252人

対象者1人あたりに必要な経費
年間1,758,764円



教育

「かわさきGIGAスクール 構想」の推進に要する経費

学習履歴などの教育データの
利活用にかかる経費など

年間15億円

市立学校・学級・児童生徒数:
107,579人(令和6年5月1日現在)

学生1人あたりに必要な経費
年間13,965円



防災

消防力や救急医療体制の 強化に要する経費

救急隊の新設にかかる
経費など

年間181億円

川崎市の人口:1,545,711人
(令和6年1月1日現在)

市民1人あたりの負担額
年間11,707円

